

(様式3-1)

平成27年1月29日

## 事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 奈良県教育委員会  
 所在地 奈良県奈良市登大路町30  
 代表者職氏名 教育長 吉田 育弘

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業実施計画書を提出します。

## 1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

## 2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ならけんりつかとりこくさいこうとうがっこう	ふりがな	もりつぐ たかし
学校名	奈良県立高取国際高等学校	校長名	森継 隆
ふりがな	ならけんりつさくらいこうとうがっこう	ふりがな	たにがき やすし
学校名	奈良県立桜井高等学校	校長名	谷垣 康
ふりがな	ならしりつへいじょうにしちゅうがっこう	ふりがな	ちやたに まさみ
学校名	奈良市立平城西中学校	校長名	茶谷 正美
ふりがな	ならしりつうきょうしょうがっこう	ふりがな	たなか けいじ
学校名	奈良市立右京小学校	校長名	田中 恵治
ふりがな	ならしりつじんぐうしょうがっこう	ふりがな	やまぐち よしつぐ
学校名	奈良市立神功小学校	校長名	山口 善嗣
ふりがな	ごせしりつくずちゅうがっこう	ふりがな	まるやま つねふみ
学校名	御所市立葛中学校	校長名	丸山 恒央
ふりがな	ごせしりつくずしょうがっこう	ふりがな	まるやま つねふみ
学校名	御所市立葛小学校	校長名	丸山 恒央
ふりがな	あすかそんりつしょうとくちゅうがっこう	ふりがな	もりもと あきひろ
学校名	明日香村立聖徳中学校	校長名	森本 昭博
ふりがな	あすかそんりつあすかしょうがっこう	ふりがな	しろもと よしのり
学校名	明日香村立明日香小学校	校長名	城本 善紀

### 3. 研究内容

#### (1) 研究開発課題

小・中・高等学校の各段階を通じて英語教育を充実させることにより、児童・生徒の英語力を向上させ、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を育成する。

小学校第1学年から外国語活動型で英語教育を実施し、第5、6学年では教科型による英語教育を週あたり2コマ実施する場合の教育課程、指導法、教材、評価方法等の研究開発。

小学校での英語教育が教科化された場合の教育内容の高度化に伴う中・高等学校における系統性のある教育課程の設定や、内容の高度化や着実な定着を実現するための指導法の研究開発。

#### (2) 研究の概要

小学校については、従前より教育課程特例校として小学校第1学年から英語教育を実施してきた取組をさらに充実・発展させ、各学年の効果的なカリキュラムや教材の作成、指導の在り方、評価方法等について、学級担任や英語教育に携わる専科教員等を中心に研究を進める。

中学校では、小学校での英語教育の成果を生かしたより高度な学習内容や指導方法の研究を小学校教員との連携のもとに進める。

高等学校では、幅広い話題についてディベートを中心に、より高度な言語活動が可能な能力を育成するための指導体制を確立する。また、小・中学校で英語教育に携わる教員の支援をする。

#### (3) 現状の分析と仮説等

##### ①現状の分析と研究の目的

各小学校では、従前より教育課程特例校として小学校低学年から英語教育に取り組んでおり、児童は英語を用いた活動等に慣れ親しんでいる。また、教員についても、教材や指導法、評価方法について効果的な在り方の研究を進めている。しかしながら、小学校と中学校の教員の連携が不十分であったり、英語教育に対する意識に差があったりして、中学校段階で小学校での取組を十分に生かし切れていない面がある。また、高等学校については、全県下から生徒が入学してくるため、小・中学校での英語教育についての理解が十分でない面がある。

小・中・高等学校間が連携し、研究授業や出前授業等を行い、各段階での英語教育について、教育課程、教材、指導の在り方、評価方法等の情報交換を密に行うことで、効果的な教材や指導法、カリキュラムを確立し、児童・生徒のコミュニケーション能力を向上させる必要がある。

##### ②研究仮説

小学校第1学年から早期に外国語活動型で英語教育を実施し、第5、6学年では授業時数を増やし、週あたり2コマ教科型で英語教育を実施することにより、初歩的な英語運用能力を向上させることができる。

小・中・高等学校が密に連携した英語教育を充実し、中・高等学校での英語教育への円滑な移行と教育内容の高度化等、各学校段階を俯瞰した系統性のある教育課程を編成することにより、教育目標や内容を高度化し、より着実に定着させ、児童・生徒の英語力の向上、英語によるコミュニケーション能力の育成に資することができる。

## ③研究成果の評価方法

外部検定試験やアンケート調査による児童・生徒の英語力や英語学習に関する意識の変容を定量的に把握する。

研究授業により教員の指導力の向上を評価する。

実践記録集や指導案集等の作成を通して研究成果を把握する。

## (4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第1～6学年 1コマ (第1・2学年については、年間10コマ以上)	第1～4学年 1コマ	第1～4学年 1コマ	第1～4学年 1コマ
②小学校 教科型	第5・6学年 1コマ	第5・6学年 1コマ	第5・6学年 2コマ	第5・6学年 3コマ

\* 第二年次以降については、現在各強化地域拠点間で調整中。第5・6学年で、教科型とともに外国語活動も行う計画、また、第3～6学年でも外国語活動型とともに教科型でも行う計画等、上乘せした計画が出されている。

## (5) 研究計画

## 第一年次～第四年次、校種別

## (小学校)

第一年次 従前の英語教育の成果の検証と、効果的な教材やカリキュラムの策定。評価方法についての研究。担任と専科教員の連携の強化。研究授業の実施。高等学校教員による授業参観及び出前授業。

第二年次 第1学年～第6学年までの外国語活動型及び教科型英語教育で使用する効果的な教材や指導事例の開発。

第三年次 評価の観点や評価規準の策定。指導事例集の作成。

第四年次 研究発表、研究冊子の作成。

## (中学校)

第一年次 小学校での英語教育の成果を生かした授業内容の研究及び高度化。高等学校教員による授業参観及び出前授業。

第二年次 小学校での英語教育とのスムーズな接続のためのカリキュラムの策定。

第三年次 効果的な教材や指導事例の開発。

第四年次 英語による授業を行い、高度な学習内容や指導方法についての研究冊子の作成。

## (高等学校)

第一年次 小・中学校での英語教育の現状の把握。

第二年次 小・中学校への出前授業及び英語教育に携わる教員への支援。ディベートを中心

とする高度な学習内容・方法の開発。

第三年次 小・中学校への出前授業の効果的な指導事例の開発。ディベートを中心とする高度な学習指導法の研究。

第四年次 幅広い話題についてディベートを中心とする高度な言語活動が可能な能力を育成するための指導体制の確立。研究冊子の作成。

#### ○平成26年度の進捗状況・課題

小学校1～4年生では、英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験させる指導を行っているが、小学校6年間を見通した指導計画や単元計画に基づくものでなかった傾向があった。今年度、各強化地域拠点校が6年間を見通した指導計画を作成したことは、成果の一つであり、これから各校で進める外国語教育の参考になり得るものである。5・6年生での教科型では、「読むこと」、「書くこと」の指導内容が課題である。各強化地域拠点校のこれからの取組と児童の発達段階を注視し、どの程度までの学習内容（文字、文構造）が可能であるかの検討が必要である。

中学校では、小学校外国語活動の成果を受けて、授業における英語使用の割合を増加させ、授業を英語によるコミュニケーションの場にするよう指導を工夫している。また、今年度は中学校単位での「CAN-DO リスト」の形での到達目標の設定をすることができた。来年度は、小・中学校の連携を意識した内容にするための見直しが必要である。リストの内容は生徒や保護者にも知らせるとともに、達成状況を把握する段階にまで活用する方法を考える必要がある。さらに、リストに基づき、生徒による言語活動が豊かになるよう、4技能を統合させたコミュニケーション活動を取り入れることが必要である。

高等学校においては、英語の授業は英語で行うことについて、全校で取り組むためにさまざまな工夫をしながら実現に向けて努力をしている。授業で使用するハンドアウトは学年で統一され、英語を発信するための内容となるよう作成されている。また、ペアやグループでの学習を多く取り入れ、生徒同士の英語によるコミュニケーションを促進している。来年度は、ディベート等の高度な学習内容が指導可能となるよう、さらに4技能統合型の活動を通して生徒のコミュニケーション能力の育成に努める必要がある。小・中学校との接続の視点から、「CAN-DO リスト」の形での到達目標を見直すことも必要である。

各校種の指導と評価に当たっては、全ての教員の英語力と指導力の向上のため、研究授業の実施など校内外での研修体制をさらに充実させる必要がある。また、「CAN-DO リスト」の形での到達目標の設定を行うことができたが、単元構想時や授業での活用方法や達成状況の確認を行うための方法を教員が共通理解することが求められる。

#### (6) 評価計画

第一年次～第四年次、校種別

(小学校)

第一年次 児童へのアンケートにより、英語学習に関する意識等を定量的に把握。教員へのアンケートにより、英語教育に関する意識や指導力を調査。

第二年次 外部検定試験（児童英検等）や意識調査による児童の英語力や英語学習に関する

意識の変容を定量的に把握。

第三年次 外部検定試験（児童英検等）や意識調査による児童の英語力や英語学習に関する意識の変容を定量的に把握。

第四年次 外部検定試験（児童英検等）や意識調査による児童の英語力や英語学習に関する意識の変容を定量的に把握。運営指導委員会において成果と今後の課題を検証。

（中学校）

第一年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。教員へのアンケートにより、英語教育に関する意識や指導力を調査。

第二年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。

第三年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。

第四年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。運営指導委員会において成果と今後の課題を検証。

（高等学校）

第一年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。教員へのアンケートにより、英語教育に関する意識や指導力を調査。

第二年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。

第三年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。

第四年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。運営指導委員会において成果と今後の課題を検証。

※各校における評価の妥当性・信頼性・実行可能性については年度ごとに検証するものとする。

#### ○平成26年度の進捗状況・課題

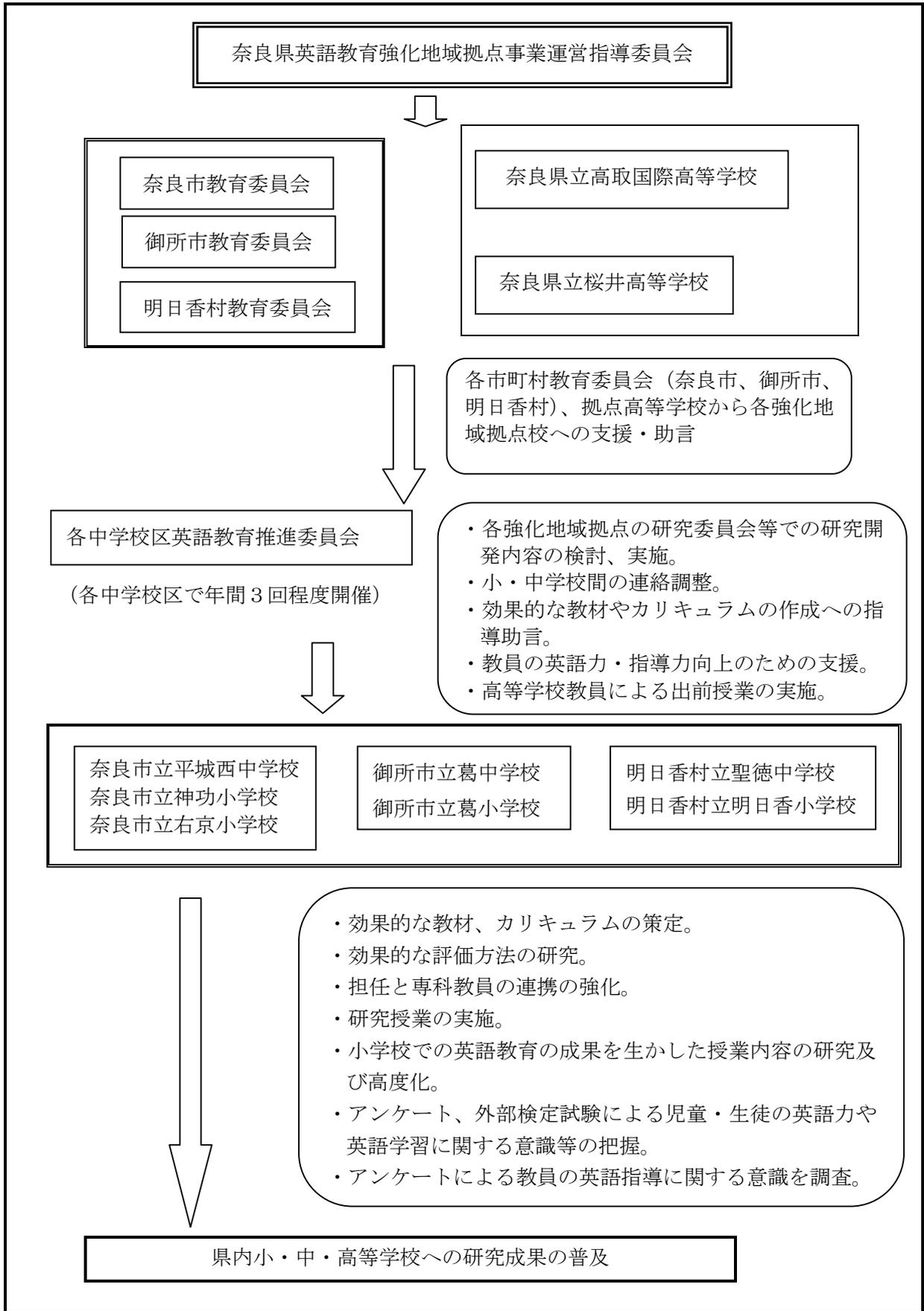
児童生徒の英語力を評価するためには、定期的に外部検定試験を利用することが効果的かつ効率的であると考え。小・中・高等学校において、時期及び外部検定試験の種類は異なるものの、英語力を測定するための試験を受験する予定である。また、児童生徒の外国語学習への意識を把握するため、アンケート調査を2学期に実施しており、3学期に2回目を実施する予定である。教員へのアンケートも同様に実施する。

英語を使って何ができるようになるのかを把握するためには、「CAN-DO リスト」の形での到達目標の設定とパフォーマンス評価を実施することが必要である。また同時に、ポートフォリオ等を作成して、児童生徒が英語を使って何ができるのかを可視化するための取組が必要である。来年度以降は、各強化地域拠点校にポートフォリオを導入し、それを活用するための実践的な支援を行うことが重要である。

これらの調査から得られた定量的データと授業観察やポートフォリオを含む定性的データを総合して分析し、児童生徒理解と指導の改善につなげていくための支援が必要であると考え

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



## (2) 運営指導委員会

## 活動計画

- ・各強化地域拠点の研究委員会等での研究開発内容の検討、実施
- ・各小・中学校間の連絡調整
- ・効果的な教材やカリキュラムの作成への指導助言
- ・教員の英語力・指導力向上のための支援
- ・高等学校英語科教員による授業参観と出前授業の実施

## ○平成26年度の進捗状況・課題

運営指導委員会の会長に吉村雅仁氏（奈良教育大学教授）に就任していただき、各強化地域拠点校の取組に対して指導助言を行う体制を整えることができた。例えば、事業の評価については、児童・生徒への英語学習についての意識を調査するアンケートや英語力を測るための外部検定試験等を活用し、数値化できる指標を採用することが求められた。小・中・高等学校連携については、互いの授業参観を継続することに加えて、授業を記録したDVDと使用する教材の配布を通して校種の異なる授業の様子を研修する方法を提案していただいた。

教員の英語力・指導力向上については、小・中・高等学校ごとに外部専門機関と連携した英語指導力向上事業「英語指導パワーアップ講座」を年間5～6日間実施した。教員が自信を持って英語を指導できるように支援するため、さらなる研修の充実を図っていきたいと考えている。

来年度に向けての課題は、本年度以上に各強化地域拠点校の研究開発と授業を実際に見て指導をいただく機会を多く設定することである。また、言語ポートフォリオとルーブリックの考え方を加えて、強化地域拠点校間に共通した枠組みで実践を行うための指導体制を作ることである。さらには、英語教育推進リーダーに積極的に本事業に関わっていただくようにしたい。

## 5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	・運営指導委員会の設置	
5月		
6月	・各強化地域拠点合同研修会 ・第1回運営指導委員会	第1回 各強化地域拠点間で活動計画交流 研究開発課題の共有
7月		
8月	・アンケートによる教員の英語指導に関する意識調査 ・先進校視察	
9月	・アンケートによる児童・生徒の英語学習に関する意識等の把握 ・各強化地域拠点校における研究授業の実施 ・各強化地域拠点合同研修会	

10月	・第2回運営指導委員会	第2回 各強化地域拠点から経過報告 運営指導委員会による研究校への指 導助言
11月	・各強化地域拠点校における研究授業の実施 ・第3回運営指導委員会	第3回 各強化地域拠点から経過報告 運営指導委員会による研究校への指 導助言
12月		
1月	・アンケートによる児童・生徒の英語学習に関する意 識等の把握 ・アンケートによる教員の英語指導に関する意識調査	
2月	・外部検定試験（英検）による生徒の英語力の把握 ・外部検定試験（英検、TOEFL、TOEIC等）による教員 の英語力及び指導力の検証	
3月	・第4回運営指導委員会 ・実践記録集、指導案集の作成・配布	第4回（研究のまとめ） 年度末の総括と次年度への課題
【その他の取組】※あれば記入		

## 〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	奈良県教育委員会事務局学校教育課義務教育係 担当（立松）
連絡先（電話番号）	代表：0742-22-1101（内線）5261 直通：0742-27-9854
（電子メール）	E-mail：tatematsu-daisuke@office.pref.nara.lg.jp

平成27年1月29日

## 事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 奈良市教育委員会  
 所 在 地 奈良市二条大路南1-1-1  
 代表者職氏名 教育長 中室 雄俊

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

## 1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

## 2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ならしりつへいじょうにしちゅうがっこう	ふりがな	ちやたに まさみ
学校名	奈良市立平城西中学校	校長名	茶谷 正美
ふりがな	ならしりつうきょうしょうがっこう	ふりがな	たなか けいじ
学校名	奈良市立右京小学校	校長名	田中 恵治
ふりがな	ならしりつじんぐうしょうがっこう	ふりがな	やまぐち よしつぐ
学校名	奈良市立神功小学校	校長名	山口 善嗣

## 3. 研究内容

## (1) 研究開発課題

社会のグローバル化に対応できるコミュニケーション能力を育むため、小学校1～4年生に活動型、5・6年生に教科型で英語教育を実施した場合の教育課程、指導及び評価方法並びに中学校における指導内容の高度化についての研究開発

## (2) 研究の概要

平成21年度より教育課程特例校として小学校1年生から中学校3年生で実施してきた英会話科の実践を充実・発展させるとともに、本市が取り組む世界遺産学習と関連付けた発信型活動を取り入れながら、下記の点について研究を行う。

1. 各学年の学習到達目標の設定とCAN-DOリストの作成
2. 市内の世界遺産等を活用した発信型活動の在り方
3. 小学校において英語教育を早期化し、中学校の指導内容の一部を移行した場合の適切な時数及びカリキュラム
4. 小学校活動型における外部人材の効果的な活用方法
5. 小学校教科型において学級担任と専科教員が指導する場合の効果比較

6. 小学校英語教育を踏まえた中学校における指導内容の高度化及びその指導方法
7. 中学校におけるICTを活用した教材開発
8. 小中連携による効果的な英語教育推進のための教員の組織及び研究体制
9. 高等学校教員による小・中学校で英語教育に携わる教員への支援、及び小・中学校への授業参観と出前授業の実施

### (3) 現状の分析と仮説等

#### ①現状の分析と研究の目的

教育課程特例校として小学校1年生から実施してきた英会話科の学習を通し、児童は英語を使った活動に慣れ親しんできている。平成24年度に本市の教育課程特例校の教員を対象に実施したアンケートでは、「英会話科により、英語によるコミュニケーション能力がついてきた」の設問に対し、小学校教員の80.6%が肯定的な回答をした。一方、中学校教員で肯定的な回答をした割合は50%に留まり、小学校で培われたコミュニケーション能力の素地が、中学校におけるコミュニケーション能力の基礎の育成に十分反映されていないことが伺えた。このことは、平成26年2月に市立中学校2年生を対象に実施した英語能力判定テストにおいて、中学中級程度の力があると診断された生徒が当該中学校の57%に留まったことから明らかである。

小学校で培ったコミュニケーション能力の素地を、確実に中学校でコミュニケーション能力の基礎の育成につなげるために、小学校と中学校の9年間を見通した学習到達目標を設定する。さらにその達成のためのカリキュラムを作成し、その効果について検証を行う。

#### ②研究仮説

小学校と中学校の9年間の学習到達目標及びCAN-DOリストを設定し、各学年における学習内容を確実に定着させながら学習を積み上げることで、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力は確実に養われるだろう。

#### ③研究成果の評価方法

- ・アンケートを実施し、児童生徒及び教員の意識について調査する。
- ・小学校6年生及び中学校全学年の児童生徒を対象に外部検定試験を実施し、英語力を測定する。

### (4) 研究開発型

	開始学年及び年間当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第1・2学年 10コマ 第3・4学年 35コマ	第1・2学年 10コマ 第3・4学年 35コマ	第1・2学年 20コマ 第3・4学年 35コマ	第1・2学年 20コマ 第3・4学年 45コマ
②小学校 教科型	第5・6学年 35コマ	第5・6学年 35コマ	第5・6学年 70コマ	第5・6学年 105コマ

## (5) 研究計画

<b>第一年次 各学年の到達目標を設定し、中学校においてCAN-DOリストを作成する。</b>	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの英会話科カリキュラムを実践しながら見直し、各学年の到達目標を設定するとともに、数値を用いた指標について研究する。</li> <li>中学校の指導内容を移行した場合のカリキュラムについて研究・作成する。</li> <li>市内の世界遺産等を活用した発信型活動の指導計画を作成し、試行する。</li> <li>校内研修や中学校との合同研修等を開催し、小学校教員の英語の授業力向上を図る。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校に指導内容を移行した場合のカリキュラムを作成し、各学年の到達目標を設定するとともに、数値を用いた指標について研究し、CAN-DOリストを作成する。</li> <li>平成25年度の英語能力判定テストの結果を分析し、指導内容及び指導方法の改善を図る。</li> <li>市内の世界遺産等を活用した発信型活動の指導計画を作成し、試行する。</li> <li>小学校との合同研修等を開催し、小学校の研究に助言を行うと同時に、中学校教員の指導力向上を図る。</li> </ul>
<b>第二年次 第一年次に作成したカリキュラムを試行し、指導方法を実践研究するとともに、小学校においてCAN-DOリストを作成する。</b>	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一年次に設定した到達目標に基づく数値を用いた指標について研究し、CAN-DOリストを作成する。</li> <li>1年生から4年生における外部人材を活用した指導事例の開発を行う。</li> <li>5・6年生の到達度確認テストについて研究・作成する。</li> <li>小学校の英語指導における評価の観点及び評価規準について研究を行い、一部作成する。</li> <li>市内の世界遺産等を活用した発信型活動の指導事例集を作成する。</li> <li>教員研修等を継続する。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の確実な定着を図るため、CAN-DOリストを用いて各単元における到達度の確認を随時行い、指導内容の改善を図る。</li> <li>高度な指導を行う場合の適切な教材や指導方法について研究し、指導計画を作成する。</li> <li>ICTを活用した教材や指導方法について研究し、指導計画を作成する。</li> <li>市内の世界遺産等を活用した発信型活動の指導事例集を作成する。</li> <li>世界遺産学習全国サミット等で、生徒が学習成果を発表する機会を設定する。</li> <li>教員研修等を継続する。</li> </ul>
<b>第三年次 第一・二年次の実践を見直し、その成果と課題を研究中間発表会で報告する。</b>	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の英語指導における評価の観点及び評価規準を完成させるとともに、評価・評定を実施し、その有効性について検証する。</li> <li>5・6年生の指導を学級担任と専科教員が行った場合のそれぞれの効果を比較検証する。</li> <li>モジュール授業を用いた場合の指導計画を作成する。</li> <li>小中合同で研究中間発表会を開催する。</li> <li>教員研修等を継続する。</li> </ul>

中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第二年次に作成した高度な指導計画を試行し、指導事例集を作成する。</li> <li>・ 第二年次に作成したICTを活用した指導計画を試行し、その有効性について検証する。</li> <li>・ 小中合同で研究中間発表会を開催する。</li> <li>・ 世界遺産学習全国サミット等で、生徒が学習成果を発表する機会を設定する。</li> <li>・ 教員研修等を継続する。</li> </ul>
<b>第四年次 実践内容の改善を図りながら、研究の成果と課題をまとめる。</b>	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モジュール授業を試行し、その有効性について検証する。</li> <li>・ 第三年次までの改善案を実践する中で、問題点を探り、実践内容の改善を図る。</li> <li>・ 指導案集等、研究成果を研究冊子にまとめる。</li> <li>・ ホームページ等で実践の様子や研究成果を公開する。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第三年次までの改善案を実践する中で、問題点を探り、実践内容の改善を図る。</li> <li>・ 指導案集等、研究成果を研究冊子にまとめる。</li> <li>・ 世界遺産学習全国サミット等で、生徒が学習成果を発表する機会を設定する。</li> <li>・ ホームページ等で実践の様子や研究成果を公開する。</li> </ul>

## ○平成 26 年度の進捗状況・課題

## (小学校)

- ・ これまでの実践と奈良市教育委員会事務局が提供した指導事例をもとに年間カリキュラムを作成し、各学年の到達目標を設定した。
- ・ 市内の世界遺産等を活用した指導案を作成し、校内研究授業を実施した。
- ・ 小学校における英語教育について中学校との合同研修を原則全教員が参加して実施した。

## (中学校)

- ・ 各学年の到達目標を設定し、CAN-DOリストを作成した。
- ・ 平成 25 年度の英語能力判定テストの結果をもとに、指導内容及び指導方法について改善を図るため校内研究授業を実施した。
- ・ 小学校における英語教育について、小学校との合同研修を原則全教員が参加して実施した。

## (課題)

- ・ 中学校の指導内容を小学校に移行する場合の在り方について。

## (6) 評価計画

<b>第一年次 主に研究計画などから評価する。</b>	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第四年次までの研究計画について、運営指導委員会や平城西中学校区英語教育推進委員会（仮称）からの指導をもとに、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。</li> <li>・ 設定した到達目標について、運営指導委員会や平城西中学校区英語教育推進委員会（仮称）からの指導をもとに、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。</li> <li>・ 7月、1月に児童・教員・保護者を対象に意識調査をする。</li> <li>・ 1月に6年生の児童を対象に英語検定を実施する。</li> </ul>

中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第四年次までの研究計画について、運営指導委員会や平城西中学校区英語教育推進委員会（仮称）からの指導をもとに、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。</li> <li>・ 到達目標や作成したCAN-DOリストについて、運営指導委員会や平城西中学校区英語教育推進委員会（仮称）からの指導をもとに、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。</li> <li>・ 7月、1月に生徒・教員・保護者を対象に意識調査をする。</li> <li>・ 1月に生徒全員を対象に英語能力判定テストを実施する。</li> </ul>
<b>第二年次 主に評価方法から評価する。</b>	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作成したCAN-DOリスト等や評価の観点及び評価規準について、運営指導委員会や平城西中学校区英語教育推進委員会（仮称）からの指導をもとに、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。</li> <li>・ 7月、1月に児童・教員・保護者を対象に意識調査をする。</li> <li>・ 1月に6年生の児童を対象に英語検定を実施する。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作成した高度な内容の指導計画やICTを活用した教材や指導計画について、運営指導委員会や平城西中学校区英語教育推進委員会（仮称）からの指導をもとに、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。</li> <li>・ 7月、1月に生徒・教員・保護者を対象に意識調査をする。</li> <li>・ 1月に生徒全員を対象に英語能力判定テストを実施する。</li> </ul>
<b>第三年次 主に実践内容から評価する。</b>	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5・6年生の指導を学級担任と専科教員が行った場合のそれぞれの効果について、運営指導委員会や平城西中学校区英語教育推進委員会（仮称）からの指導をもとに、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。</li> <li>・ 7月、1月に児童・教員・保護者を対象に意識調査をする。</li> <li>・ 1月に6年生の児童を対象に英語能力判定テストを実施する。</li> <li>・ 研究中間発表会等で得た外部からの客観的な意見をもとに研究の改善に生かす。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月、1月に生徒・教員・保護者を対象に意識調査をする。</li> <li>・ 1月に生徒全員を対象に英語能力判定テストを実施する。</li> <li>・ 研究中間発表会等で得た外部からの客観的な意見をもとに研究の改善に生かす。</li> </ul>
<b>第四年次 主に児童生徒の変容から成果や課題を評価する。</b>	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月、1月に児童・教員・保護者を対象に意識調査をする。</li> <li>・ 1月に6年生の児童を対象に英語能力判定テストを実施する。</li> <li>・ 条件の違い（学級担任の指導、専科教員の指導、モジュール授業の有無）ごとに、その成果や課題を検証する。</li> <li>・ 研究の経過の記録や客観的な分析により、研究そのものについて評価する。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月、1月に生徒・教員・保護者を対象に意識調査をする。</li> <li>・ 1月に生徒全員を対象に英語能力判定テストを実施する。</li> <li>・ 研究の経過の記録や客観的な分析により、研究そのものについて評価する。</li> </ul>

## ○平成 26 年度の進捗状況・課題

## (小学校)

- ・ 9月に児童を対象に意識調査を実施した。
- ・ 2月に6年生の児童を対象に英語検定（児童英検）を実施する予定である。

## (中学校)

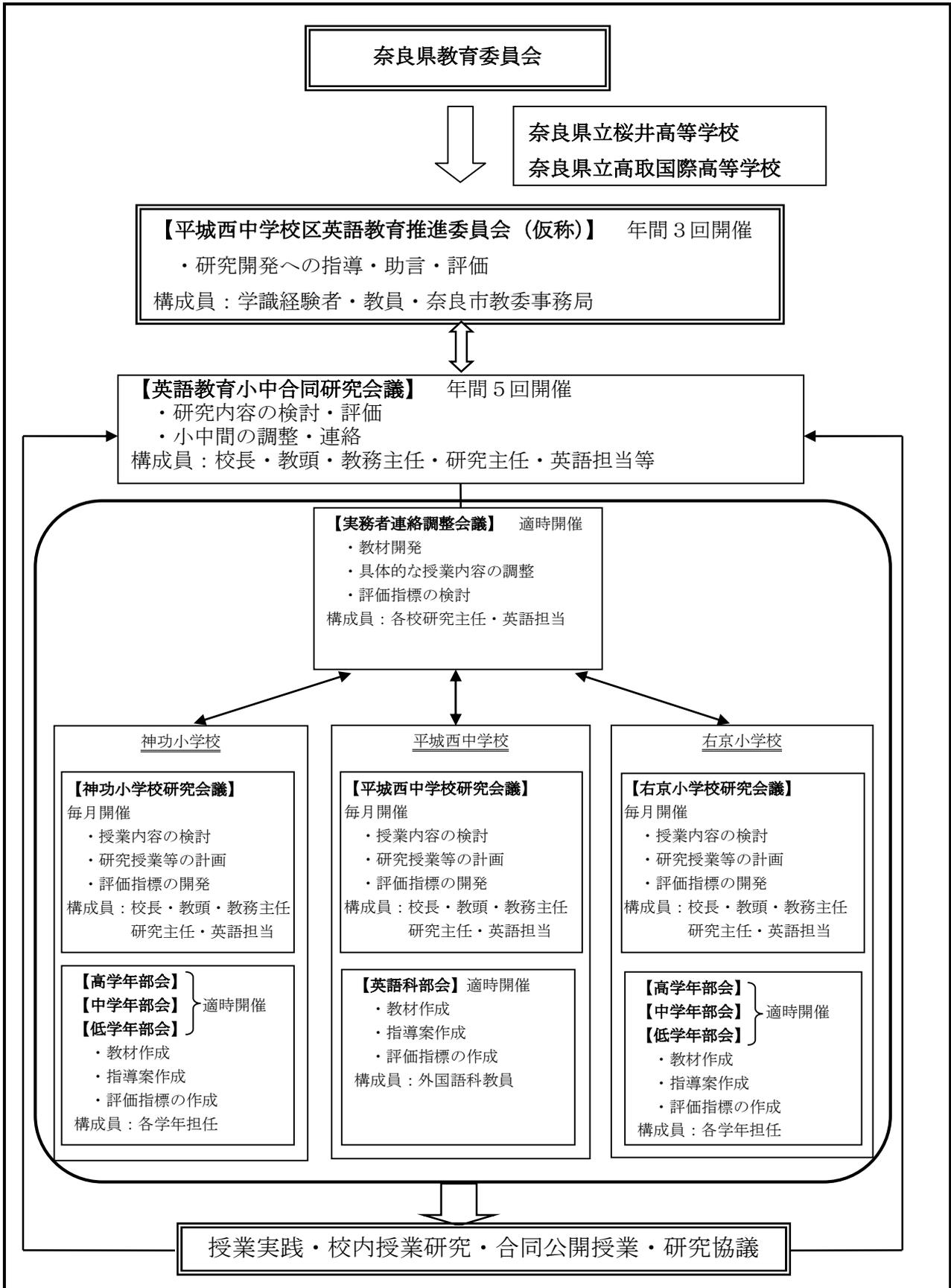
- ・ 9月に生徒を対象に意識調査を実施した。
- ・ 2月に全学年の生徒を対象に英語能力判定テストを実施する予定である。

## (課題)

- ・ 平城西中学校区英語教育推進委員会を開催できていない。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



## (2) 運営指導委員会

## 活動計画

英語教育小中合同会議において協議された研究開発の運営について、専門的見地から指導、助言、評価に当たる本委員会を、下の計画で年間3回の開催を予定する。

## 第1回平城西中学校区英語教育推進委員会

開催時期：5月

協議内容：・研究開発内容についての指導、助言  
・研究組織の実効性についての指導、助言

## 第2回平城西中学校区英語教育推進委員会

開催時期：7月

協議内容：・研究開発の進捗状況の確認とこれまでの評価  
・今後の取組についての指導、助言

## 第3回平城西中学校区英語教育推進委員会

開催時期：2月

協議内容：・各年次の研究開発の総括

## ○平成26年度の進捗状況・課題

・現時点で本推進委員会を開催できていない。

## 5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	・校内研究組織の設置 ・第1回英語教育小中合同研究会議 ・実務者連絡調整会議①	
5月	・実務者連絡調整会議②	
6月	・実務者連絡調整会議③	奈良県英語教育強化地域拠点事業第1回運営指導委員会
7月	・第2回英語教育小中合同研究会議	
8月	・小中合同教員研修① ・実務者連絡調整会議④	
9月	・実務者連絡調整会議⑤ ・研究授業①（市立平城西中学校） ・研究授業②（市立神功小学校） ・児童生徒を対象に意識調査を実施	
10月	・研究授業③（市立右京小学校） ・実務者連絡調整会議⑥	奈良県英語教育強化地域拠点事業第2回運営指導委員会

11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回英語教育小中合同研究会議</li> <li>・実務者連絡調整会議⑦</li> </ul>	奈良県英語教育強化地域拠点事業第3回運営指導委員会
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム及び中学校CAN-DOリスト原稿の完成</li> <li>・実務者連絡調整会議⑧</li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒・教員・保護者対象に意識調査を実施</li> <li>・小学校6年生から中学校3年生までの児童生徒を対象に児童英検または英語能力判定テストを実施</li> <li>・第4回英語教育小中合同研究会議</li> <li>・強化地域拠点連絡協議会</li> <li>・先進地視察②</li> <li>・実務者連絡調整会議⑨</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回平城西中学校区英語教育推進委員会（仮称）</li> <li>・実務者連絡調整会議⑩</li> </ul>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回英語教育小中合同研究会議</li> <li>・実務者連絡調整会議⑪</li> </ul>	奈良県英語教育強化地域拠点事業第4回運営指導委員会
<p>【その他の取組】</p> <p>2月 奈良市中学校スピーチコンテスト</p> <p>11月 世界遺産学習全国サミット</p> <p>1月 小中一貫教育研究発表会（仮称）</p>		

〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	奈良県教育委員会事務局学校教育課義務教育係 担当（立松）
連絡先（電話番号）	代表：0742-22-1101（内線）5261 直通：0742-27-9854
（電子メール）	E-mail：tatematsu-daisuke@office.pref.nara.lg.jp

平成27年1月29日

## 事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 御所市教育委員会  
 所 在 地 奈良県御所市1番地3  
 代 表 者 職 氏 名 教育長 上田 貞夫

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

## 1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

## 2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ごせしりつくずしょうがっこう	ふりがな	まるやま つねふみ
学校名	御所市立葛小学校	校長名	丸山 恒央
ふりがな	ごせしりつくずちゅうがっこう	ふりがな	まるやま つねふみ
学校名	御所市立葛中学校	校長名	丸山 恒央

## 3. 研究内容

## (1) 研究開発課題

小中一貫教育の英語教育において、全ての児童・生徒に言語ポートフォリオを持たせ、自己評価・相互評価・ルーブリック・パフォーマンス評価を位置づけ、児童・生徒の英語運用能力を養う教育課程の研究開発

## (2) 研究の概要

本研究の目的は、現在行われている自己評価・相互評価に加え、児童・生徒の興味・関心等の学習状況の変容について定量的に把握するためのルーブリックを開発し、さらにパフォーマンス評価を位置づけることで、習得した知識やスキルを使いこなすことが求められることに着目し、英語科において新たな評価計画を編成するものである。

具体的には、

- ①現在の評価の観点を各学年の学習内容に応じて類型化した表を作成し、運用を図る。
- ②各教科・領域と連携し、我が国の伝統・文化を発信することに重きをおいた教材を開発し、児童・生徒の英語運用能力の育成を目指す「English Performance(EP)」の時間を導入する。
- ③現在小学部で使用しているポートフォリオにルーブリックを組み込み、中学部に継承させることでなめらかな接続を実現する。
- ④小学部においては、学級担任を主としながら、英語担当教員とALTや地域人材とのTTを活

用し、学習集団と指導体制を工夫する。

- ⑤高等学校教員による小・中学校で英語教育に携わる教員への支援や小・中学校への授業参観と出前授業を実施する。

### (3) 現状の分析と仮説等

#### ①現状の分析と研究の目的

本校は2004年度の特区認定時より、5・6年生で週1時間の「英語科」、3・4年生で週1時間の「英語活動」を、翌年度は早期英語教育推進事業として1・2年生で週1時間の「英語活動」を、3・4年生、5・6年生はそれぞれ週2時間実施、2009年度以降は教育課程特例校として1～4年生で週1時間の「外国語活動」を、5・6年生で週2時間の「英語科」を実施してきた。2011年度以降は、5・6年生において、話すこと・聞くことに焦点化した「英語A」と、書くこと・読むことに焦点化した「英語B」をそれぞれ週1時間実施している。

この10年間にわたって、小学校1年生から系統性をもって歌や英語活動を通して、ALTや様々な国の文化に親しむ、「個を開くための英語」という認識をもって取り組んできた。しかし、6年間英語を積み上げてきた児童が中学部へと進学したときにつまずきや段差・格差を感じ、意欲を欠いてしまうといった課題に直面してきた。その要因は、中学校英語では、読むこと・書くことという言語力においては差が表れやすい領域が加わること、また現行の入試制度のもと、読むこと・書くことの指導と評価にシフトしていかざるを得ないところに段差があるのではないだろうか。子どもたちにも、教員にも外国語活動と英語科は別物という認識があり、一小一中の小中学校でありながらもスムーズな連携が実現できていないという現実、新たな評価計画を編成し、児童・生徒の英語運用能力を高め、教員の指導力向上を目指したい。

#### ②研究仮説

パフォーマンス評価を深め、これまでの読むこと・書くことの指導を大切にしながら、中学部において「English Performance(EP)」の時間を導入し、英語運用能力の評価方法を変え、子どもたちの実態を変えていく。小学部においても、各学年でパフォーマンス評価を位置づける。また、5・6年生において週1時間実施する教科型により、読むこと・書くことのなめらかな接続を図る。具体的なEnglish Performance(EP)としては、小学部では話すこと・聞くことを主として、低学年に関しては主として自分に関すること(一人称)、高学年になるにつれて友だちや家族に関すること(二人称から三人称へ)、中学部においては、我が国の郷土や文化に関すること(俳句・詩・古典の英語化や英語での古典芸能、ホームページ作成、英語ブログなど)をデジタルポートフォリオ等の活用を通して系統立てたい。

現在小学部で使用している言語ポートフォリオを中学部でも導入し、ルーブリックを組み込むことで定量的に児童・生徒の運用能力を把握する。また言語ポートフォリオを中学部に継承させることで、個に応じた支援や指導に繋げたい。

中学部において週1時間あたりのEnglish Performance(EP)の時間の設定が教育課程の特例として必要となる。

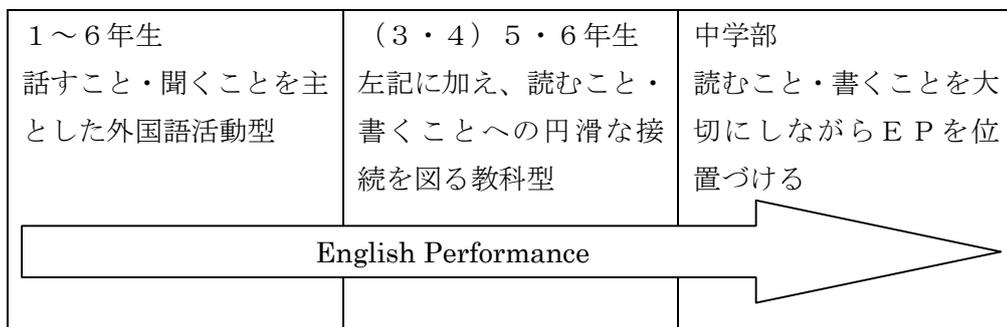
### ③研究成果の評価方法

児童・生徒の英語運用能力が、今回の取組によりどのように深化しているかを検討できるルーブリックを作成し、ポートフォリオに組み込み、実施する。

English Performance(EP)の活動記録分析や実態調査や表現分析を定期的に行い、長期には活動毎の達成過程の多項目評価を蓄積し、短期には指導評価として活用するとともに、期間の区切り毎に児童・生徒の学習過程をふり返り、成果をフィードバックする方法を開発する。

外国語活動、英語科に携わる教員用に、デジタル教材の扱いや Classroom English などの英会話能力を明確化するルーブリックを組み込み、ポートフォリオを開発し、TTや校内研修を通して、授業力向上のための評価を行う。

上記のことに関して、取組以前と取組以後を比較検討するために、一年次、二年次、三年次にわたって活動記録分析や実態調査や表現分析を行う。



### (4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第1～6学年 1コマ	第1～6学年 1コマ	第1～6学年 1コマ	第1～6学年 1コマ
②小学校 教科型	第5・6学年 1コマ	第3～6学年 1コマ	第3～6学年 2コマ	第3～6学年 3コマ

### (5) 研究計画

第一年次～第四年次、校種別

#### 小学校

##### 第一年次

- ・ルーブリックを組み込ませたポートフォリオ、パフォーマンス評価を位置づける新たなカリキュラム編成の試行と指導法の検討。
- ・公開研究会等の開催と第一年次の研究成果の報告。

##### 第二年次

- ・第一年次の計画を成果の評価に照らし、修正や拡充を加え、運用を図る。
- ・評価法の更新。
- ・公開研究会の開催と第二年次の研究成果の報告。

### 第三年次

- ・ 第二年次の計画を成果の評価に照らし、修正や拡充を加え、本格化させる。
- ・ 評価法の更新。
- ・ 公開研究会の開催と第三年次の研究成果の報告。

### 第四年次

- ・ 第三年次を引き継ぎつつ、より進展させた研究開発の確立と評価に向けた作業を行う。
- ・ 研究開発の評価と成果発表のための公開研究会を行う。
- ・ 他校での実践に向けた検討・評価、実践事例の公表、提言を行う。

## 中学校

### 第一年次

- ・ ルーブリックを組み込ませたポートフォリオ、パフォーマンス評価を位置づける新たなカリキュラム編成の試行と指導法の検討。
- ・ **English Performance(EP)**の時間のカリキュラムと各教科・領域との関連及び相互関係の検討。
- ・ 公開研究会等の開催と第一年次の研究成果の報告。

### 第二年次

- ・ 第一年次の計画を成果の評価に照らし、修正や拡充を加え、運用を図る。
- ・ **English Performance(EP)**の時間の実施と内容の改善。
- ・ 評価法の更新。
- ・ 公開研究会の開催と第二年次の研究成果の報告。

### 第三年次

- ・ 第二年次の計画を成果の評価に照らし、修正や拡充を加え、本格化させる。
- ・ **English Performance(EP)**の時間の実施と内容の改善・評価法の更新。
- ・ 公開研究会の開催と第三年次の研究成果の報告。

### 第四年次

- ・ 第三年次を引き継ぎつつ、より進展させた研究開発の確立と評価に向けた作業を行う。
- ・ 研究開発の評価と成果発表のための公開研究会を行う。
- ・ 他校での実践に向けた検討・評価、実践事例の公表、提言を行う。

### ○平成 26 年度の進捗状況・課題

- ・ 各学年において、単元末をめやすとして、パフォーマンス課題に取り組んでいる。
- ・ ルーブリックについての理解を深めるため、奈良教育大学教職大学院より、吉村雅仁教授を講師として招聘し、校内研修を行った。
- ・ パフォーマンス評価を位置づける新たなカリキュラム編成をし、試行している。
- ・ 英語に親しませるため、掲示物等の工夫をして校内環境の整備を行った。
- ・ 今後、研究成果の報告作業へと向かっていかなければならない。
- ・ 教科型の学習については、「アルファベットクイズを作ろう」「英和・和英辞書の使い方に親しもう」「単語クイズを作ろう」「文の書き方に親しもう」「ピクトサインを作ろう」「英英辞書クイズを解こう」「英語のことわざに親しもう」「葛小英検にチャレンジ」などの単元を構成し、文字に親しむ活動を行っている。

## (6) 評価計画

## 第一年次～第四年次、校種別

## 小学校

## 第一年次

- ・パフォーマンス力の育ちの実態調査を行い、それをもとに研究仮説の確認検討を行う。
- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行う。
- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第一年次の研究成果を公表し評価を得る。

## 第二年次

- ・年度当初に、各種の評価法による多角的な実態調査を行い、第一年次の研究成果を評価する。
- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行い、二年間の研究成果の評価を行う。
- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第二年次までの研究成果を公表し評価を得る。

## 第三年次

- ・年度当初に、各種の評価法による多角的な実態調査を行い、第二年次の研究成果を評価する。
- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行い、三年間の研究成果の評価を行う。
- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第三年次までの研究成果を公表し評価を得る。

## 第四年次

- ・年度当初に、各種の評価法による多角的な実態調査を行い、三年間の研究成果を評価する。
- ・研究会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・公開研究会を実施し、第三年次までの研究成果を公表し評価を得る。
- ・年度末に四年間の研究成果の総括的評価を行う。

## 中学校

## 第一年次

- ・パフォーマンス力の育ちの実態調査を行い、それをもとに研究仮説の確認検討を行う。
- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行う。
- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第一年次の研究成果を公表し評価を得る。

## 第二年次

- ・年度当初に、各種の評価法による多角的な実態調査を行い、第一年次の研究成果を評価する。
- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行い、二年間の研究成果の評価を行う。
- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第二年次までの研究成果を公表し評価を得る。

## 第三年次

- ・年度当初に、各種の評価法による多角的な実態調査を行い、第二年次の研究成果を評価する。
- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行い、三年間の研

究成果の評価を行う。

- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第三年次までの研究成果を公表し評価を得る。

第四年次

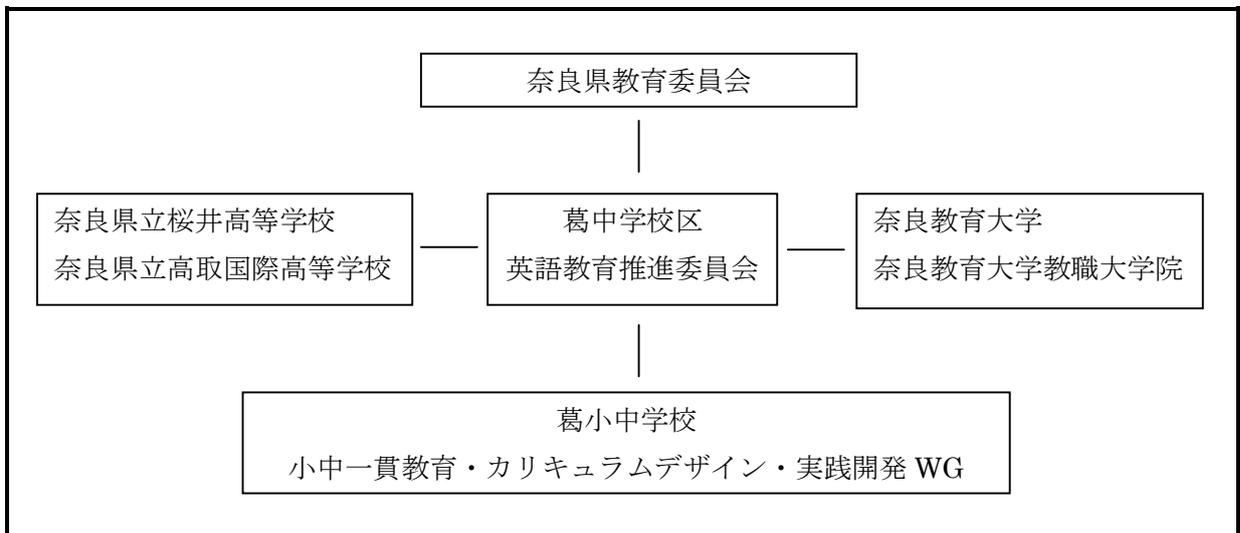
- ・年度当初に、各種の評価法による多角的な実態調査を行い、三年間の研究成果を評価する。
- ・研究会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・公開研究会を実施し、第三年次までの研究成果を公表し評価を得る。
- ・年度末に四年間の研究成果の総括的評価を行う。

○平成 26 年度の進捗状況・課題

- ・1月に英語能力判定テストを行う予定。現在、学年・受験級について検討している。
- ・1年生から9年生のCAN-DOリストを作成した。6年生と7年生の接続を意識して修正したいと考えている。CAN-DOリストと有効なパフォーマンス評価の例を連動させた一覧表のようなものを作っていきたい。
- ・県内の拠点校に向けて授業公開を行い、研究協議をもち、運営指導委員会より講評をいただいた。
- ・第一年次の研究成果の報告をするための作業に入っていきたい。

#### 4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



#### 5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	ワーキンググループ編成 新カリキュラム編成と指導法のための研修 第1回葛中学校区英語教育推進委員会 第一年次の研究計画の編成 実態調査のための質問紙等作成	

5月	ループリック作成と実践事例の集積	
6月	ループリック作成と実践事例の集積 桜井高校・高取国際高校の公開授業研究会に参加	奈良県英語教育強化地域拠点事業第1回運営指導委員会
7月	ループリック作成と実践事例の集積 第2回葛中学校区英語教育推進委員会 英語教育推進リーダー中央研修（小学校）に参加	
8月	研究大会等による中間報告会で分析・検討を行う パフォーマンス評価に関わる研修 奈良教育大学において、英語指導力パワーアップ研修に参加 奈良県中学校英語教育研究会夏期研修会に参加	
9月	中間報告会で得た分析・検討を踏まえたループリック作成と 実践事例の集積 奈良市拠点校の公開授業研究会に参加	
10月	中間報告会で得た分析・検討を踏まえたループリック作成と 実践事例の集積	奈良県英語教育強化地域拠点事業第2回運営指導委員会
11月	中間報告会で得た分析・検討を踏まえたループリック作成と 実践事例の集積 県内の拠点校へ向け、公開授業研究会を行った 明日香村立聖徳中学校の公開授業研究会に参加	奈良県英語教育強化地域拠点事業第3回運営指導委員会
12月	中間報告会で得た分析・検討を踏まえたループリック作成と 実践事例の集積 英語教育推進リーダー中央研修（小学校）に参加	
1月	中間報告会で得た分析・検討を踏まえたループリック作成と 実践事例の集積 児童・生徒の英語能力を測る試験を実施予定	
2月	第3回葛中学校区英語教育推進委員会 研究会の実施 パフォーマンス力の育ちの実態調査を行い、研究仮説の確認 検討を行う	
3月	パフォーマンス力の育ちの実態調査を行い、研究仮説の確認 検討を行う 第一年次研究紀要作成	奈良県英語教育強化地域拠点事業第4回運営指導委員会
【その他の取組】※あれば記入 オープンスクール、校内研修、HP更新、書籍等購入		

## 〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	奈良県教育委員会事務局学校教育課義務教育係 担当（立松）
連絡先（電話番号）  （電子メール）	代表：0742-22-1101（内線）5261 直通：0742-27-9854 E-mail：tatematsu-daisuke@office.pref.nara.lg.jp

## 事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 明日香村教育委員会  
 所 在 地 奈良県高市郡明日香村大字川原 91—1  
 代 表 者 職 氏 名 教育長 田中 祐二

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

## 1. 事業の実施機関

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日
----------------------

## 2. 強化地域拠点の学校名

ふりがな	あすかそんりつあすかしょうがっこう	ふりがな	しろもと よしのり
学校名	明日香村立明日香小学校	校長名	城本 善紀
ふりがな	あすかそんりつしょうとくちゅうがっこう	ふりがな	もりもと あきひろ
学校名	明日香村立聖徳中学校	校長名	森本 昭博

## 3. 研究内容

## (1) 研究開発課題

- |  |
|--|
| <p>○明日香に根ざした“国際人”の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学3年生でコミュニケーションができる能力を</li> <li>・ 郷土明日香に対して、自信と誇りと発信を</li> <li>・ 国際交流を通して積極的に異文化を学ぶ力と挑戦する力を</li> <li>・ 幼・小・中一貫した英語教育を</li> </ul> |
|--|

## (2) 研究の概要

- |   |
|---|
| <p>①小学校において、各学年のカリキュラムと教材を作成し、明日香村独自のテキストを作成する。<br/>       (特設 各学年1時間)</p> <p>②中学校の英会話科(特設 各学年1時間)のカリキュラムと教材を作成し、コミュニケーション力を高める。</p> <p>③楽しく意欲的に学ぶ英語活動・英語教育を推進するために、幼・小・中の連携と接続について、月1回の研究部会で研究する。</p> <p>④高等学校教員による小・中学校で英語教育に携わる教員への支援や小・中学校への授業参観と出前授業を実施する。</p> |
|---|

## (3) 現状の分析と仮説等

## ①現状の分析と研究の目的

- ・平成21年2月に明日香小学校・聖徳中学校とも、文部科学省の教育課程特例校の研究指定を受け、小学1～4年に英語活動（週1時間）、小学5～6年の外国語活動（週1時間）に英語活動（週1時間のカリキュラムを入れ、指導を実施している。中学校においても、英会話科を1時間増設している。
- ・小学校に非常勤講師（英語）2名と中学校に外国語指導助手を1名加配し、英語教育の充実を図ったが、教員間の連携が課題として見えてきた。
- ・平成24年度より、幼小中一貫教育推進を目指して、英語部会を組織し、英語教育の接続を研究している。
- ・幼小中の接続を考慮した英語活動・英語教育のカリキュラムとテキストを作成。

## ②研究仮説

一貫教育推進の取組を総合的に活かし、全教員が明日香に根ざした国際人の育成に向けて取り組み、評価点検を行うことで、グローバルな人材を育成することができる。

## ③研究成果の評価方法

- ・幼稚園、小学校、中学校での英語活動・英語教育の実践記録をまとめ配布。
- ・地域における「海外経験者の集い」を開催し活用する。
- ・小学6年生・中学3年生が英語検定を受検。
- ・国際交流の機会を増やし、実践することで習熟度を点検・評価する。

## (4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第1～6学年 1コマ	第1～2学年 1コマ	第1～2学年 1コマ	第1～2学年 1コマ
②小学校 教科型	第5～6学年 1コマ	第3～4学年1コマ 第5～6学年2コマ	第3～4学年1コマ 第5～6学年2コマ	第3～4学年2コマ 第5～6学年3コマ

## (5) 研究計画

第一年次～第四年次、校種別

## 【小学校】

第一年次（26年度）… 小学1～6年生のカリキュラムと教材の作成。

## 《低学年の重点》

- ・英語を聞く態度を育てる
- ・英語の音やリズムに出合う
- ・英語と日本語の違いに気づく

## 《中学年の重点》

- ・英語を聞き、外国語でコミュニケーションができる態度をつくる
- ・英語の音やリズムに出合い、楽しみながら覚えようとする
- ・英語と日本語の音や文字の違いに気づき、言葉の豊かさを理解する

## 《高学年の重点》

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知る
- ・英語を聞き、コミュニケーションができる態度をつくる

- ・英語の音やリズムに出会い、楽しみながら覚えようとする

第二年次（27年度）…年間カリキュラムの検証。

- ・フォニックスの活用のあり方
- ・文字指導の導入時期について

第三年次（28年度）…明日香に根ざした国際人の育成に向けて、足りない力は何か。

- ・コミュニケーション力の評価・検証
- ・郷土愛や発信力の評価・検証
- ・相手の考えを受け止め、自分の考えを説明する力の評価・検証（協調性・柔軟性）
- ・世界に羽ばたこうとする力の評価・検証（挑戦力・チャレンジ精神）

第四年次（29年度）…明日香に根ざした国際人を目指した取り組みについて、一貫教育の視点でまとめる。

#### 【中学校】

第一年次（26年度）…英会話科のカリキュラムと教材を作成（全学年）

小学校5・6年と中学校1・2年の英語教育の接続を研究し、より充実した英語教育を創造する。

第二年次（27年度）…どのような教材と指導が効果的であるかを研究する。

楽しく日常的に活用できる英語を目指す。

第三年次（28年度）…コミュニケーション力や発信力、チャレンジ精神、協調性などを総合的に評価・検証する。

第四年次（29年度）…明日香に根ざした国際人を目指した取り組みについて、一貫教育の視点でまとめる。

#### ○平成26年度の進捗状況

- ・「明日香村英語教育強化地域拠点事業推進委員会」を開き、外部識者から助言を得る。
- ・幼・小・中学校の英語指導教員による英語部会は、基本的に月1回実施している。
- ・英語教育の先進地視察（香川県直島小・中学校）に幼小中教委事務局から20名が参加した。
- ・「英語教育強化地域拠点事業」に関わる公開授業研究会に参加（奈良市・御所市）
- ・「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の授業研究会に参加（高取国際高校）
- ・1年間の研究成果と課題を、実践記録集としてまとめる。

#### 《小学校》

・平成23年度から小学校における英語教育の核になっていたが英語指導教員が8月付で急に退職し、9月より中学校のALTが小学校に配属された。そのため、今後の研究の進め方やカリキュラム、指導法を検討しなおすこととなった。その結果、小学3年より教科型で研究する方向で進んでいる。

・学級担任が主体的に授業計画を作成し、英語指導教員と連携して指導する体制づくりが課題である。

・英語指導教員がフォニックスの指導講習会に参加。

#### 《中学校》

・奈良県中学校英語教育研究会を聖徳中で開催し、授業公開をした。

・2学期より2人の英語科教諭による授業参観を週1回程度行い、授業研究をしている。

・「英語教育強化地域拠点事業」が英語科教諭に任されていて、学校全体の研究課題にまだなっていない。

・韓国・石城中学校との相互交流、オーストラリア・バンクシアパーク国際高校で交際交流（9日間・2年生・10名）を実施

## (6) 評価計画（平成26年度の進捗状況・課題）

第一年次～第四年次、校種別

## 【小学校】

- ・年度毎に、実践記録集を作成
- ・小学6年生において、英語検定を受検
- ・海外経験者より、英語活動・英語教育のあり方についての意見聴取
- ・国際交流を通じ、児童の英語力を調査する
- ・運営指導委員会において、評価・指導を受ける

## 【中学校】

- ・年度毎に、実践記録集を作成
- ・中学3年生において、英語検定を受検
- ・海外経験者より、英語活動・英語教育のあり方についての意見聴取
- ・国際交流を通じ、生徒の英語力を調査する
- ・運営指導委員会において、評価・指導を受ける

○平成26年度の進捗状況・課題

## 《小学校》

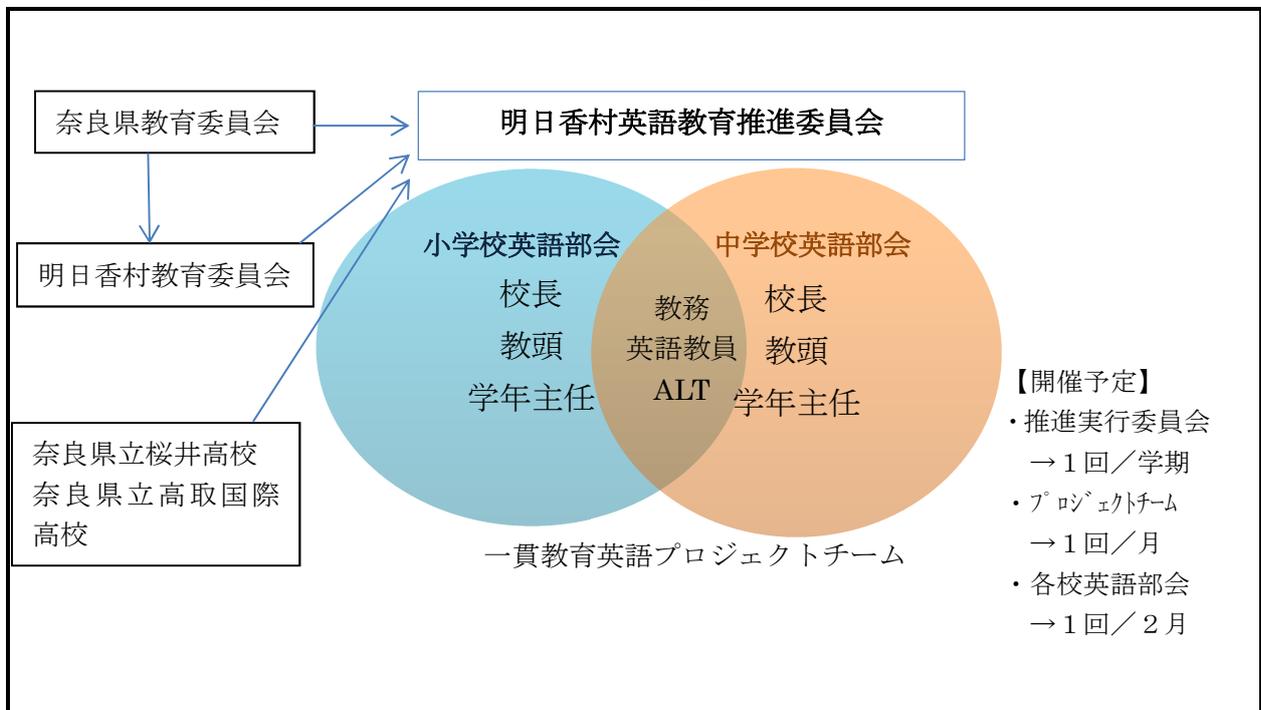
- ・12月に児童英検（シルバー）を実施
- ・担任と英語指導教員が連携した授業づくりまで至っていない。

## 《中学校》

- ・英語科教諭による相互の授業参観を週1回程度行い、検討会を開いている。
- ・中学3年生においてGTECを12月に実施

## 4. 研究組織

## (1) 研究組織の概要（平成26年度の進捗状況・課題）



○平成26年度の進捗状況・課題

- ・明日香村英語教育強化地域拠点事業推進委員会を26年度は2回開催
- ・明日香小学校においては、校内英語教育推進委員会を2学期より月1回開催
- ・高取国際高校、桜井高校と研究交流
- ・一貫教育英語プロジェクトとして、原則として月1回開催
- ・中学校においては、中学校英語部会がまだ開催されていない

## 5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究組織の設置（英語教育の組織まで至らず）</li> <li>・幼小中一貫教育英語部会（第1回）</li> <li>・実務者連絡調整会議①</li> </ul>	
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中一貫教育推進実行委員会（第1回）</li> <li>・幼小中一貫教育英語部会（第2回）</li> <li>・幼小中一貫教育PTA保護者部会（第1回）</li> <li>・幼小中一貫教育教職員合同研修①</li> <li>・実務者連絡調整会議②</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中一貫教育英語部会（第3回）</li> <li>・実務者連絡調整会議③</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中一貫教育英語部会（第4回）</li> <li>・実務者連絡調整会議④</li> <li>・研究授業（小学校・中学校）（授業態勢が整わずできていない）</li> <li>・明日香村英語教育強化地域拠点事業推進委員会（第1回）</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中一貫教育英語部会（第5回）（英語部会開けず）</li> <li>・英語教育先進地視察（香川県直島小・中学校）</li> <li>・幼小中一貫教育教員合同研修②</li> <li>・実務者連絡調整会議⑤</li> <li>・日韓相互交流「日韓の架け橋」実施（中学3年 10名）</li> <li>・国際交流事業「明日香の風」オーストラリアに派遣 中学2年 10名）</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中一貫教育英語部会（第6回）</li> <li>・実務者連絡調整会議⑥</li> <li>・先進地視察①（8月に実施）</li> <li>・「外部専門機関と連携した英語指導向上」授業研究会に参加</li> <li>・「英語教育強化地域拠点事業」に係る公開授業に参加</li> </ul>	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中一貫教育推進実行委員会（第2回）</li> <li>・幼小中一貫教育英語部会（第7回）</li> <li>・幼小中一貫教育PTA保護者部会（第2回）</li> <li>・英会話科カリキュラム・テキスト作成（小学校で進まず）</li> <li>・実務者連絡調整会議⑦</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中一貫教育英語部会（第8回）（所用のため開けず）</li> <li>・研究授業（小学校・中学校）（中学校で研究大会開催）</li> <li>・「英語教育強化地域拠点事業」に係る公開授業に参加</li> <li>・実務者連絡調整会議⑧</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中一貫教育英語部会（第9回）</li> <li>・児童生徒・保護者対象に意識調査を実施（準備できず）</li> <li>・実務者連絡調整会議⑨</li> <li>・小学校で児童英検、中学校でGTECを実施</li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中一貫教育英語部会（第10回）</li> <li>・小学校6年生・中学校3年生を対象に英検または英語能力判定テストを実施（12月実施のため、結果分析）</li> <li>・先進地視察② 小学校の県内での研究会に参加</li> <li>・実務者連絡調整会議⑩</li> </ul>	

2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼小中一貫教育英語部会（第11回）</li> <li>・ 幼小中一貫教育PTA保護者部会（第3回）</li> <li>・ 幼小中一貫教育推進実行委員会（第3回）</li> <li>・ 実務者連絡調整会議⑪</li> </ul>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼小中一貫教育英語部会（第12回）</li> <li>・ 実務者連絡調整会議⑫</li> <li>・ 英語教育実践記録集を作成・配布</li> </ul>	
<p><b>【その他の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園から中学校までを対象に英語活動を実施（幼小中一貫教育の推進）</li> </ul>		

〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	奈良県教育委員会事務局学校教育課義務教育係 担当（立松）
連絡先（電話番号）	代表：0742-22-1101（内線）5261 直通：0742-27-9854
（電子メール）	E-mail：tatematsu-daisuke@office.pref.nara.lg.jp